

優良賞 女渕の家

構造材に県産木材を70%以上使用

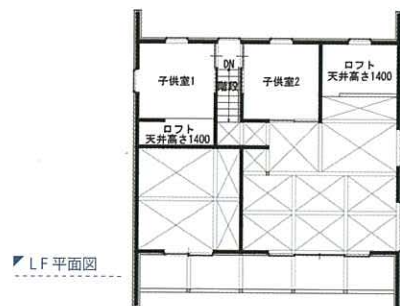


07.

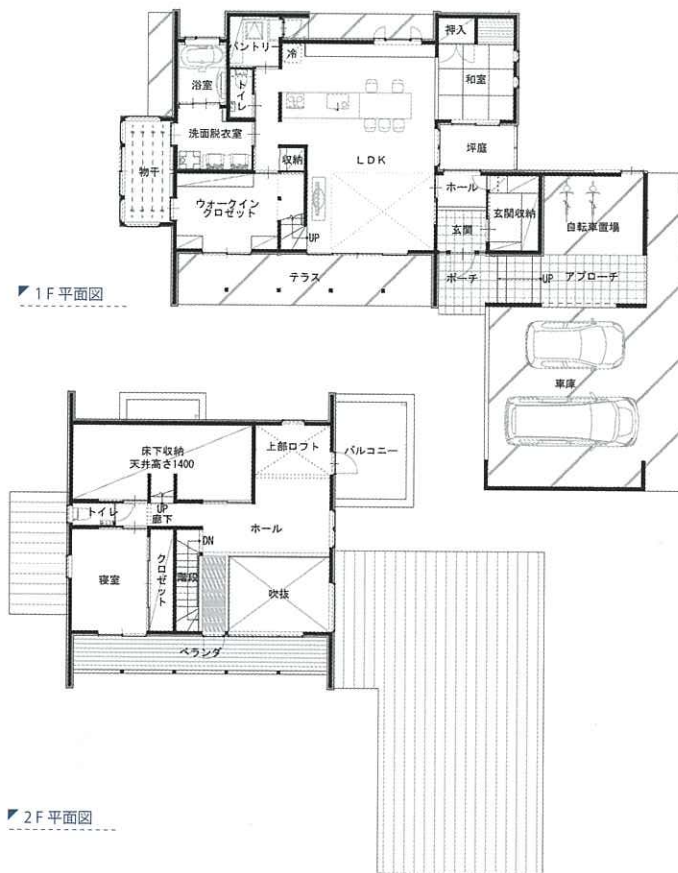
Gunma Housing Award

Concept 設計趣旨

次世代省エネ基準の断熱性と、太陽光発電、エコキュート、ヒートポンプ床暖房などの、省・創エネルギーに配慮した環境住宅で、南側は大開口とし、深い軒を設けて日射のコントロールと、吹抜けを通しての通風を確保したパッシブデザインを採用しました。外部仕上げは景観を損なわぬよう、土色の塗り壁、茶色のガルバリウム鋼板、板張りとアースカラーでまとめ、車庫と袖壁でプライバシーを確保し、屋根形状を緩い片流れとして将来的に太陽光発電を増設可能としました。構造材に県産木材を70%以上使用した県産材利用住宅で、内部を構造現しとし、珪藻土と無垢フローリング、羽目板等自然素材を使用した自然住宅としております。

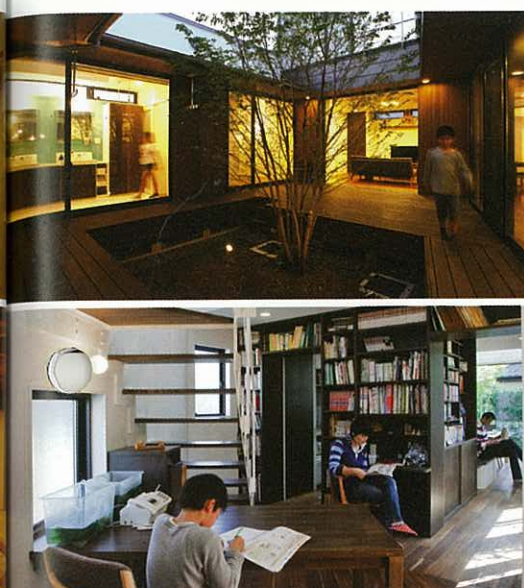


設計者 / POTOS DESIGN OFFICE
施工者 / 分離発注による



優良賞 江木のコートハウス

その敷地だからこそ成立する唯一無二の建築

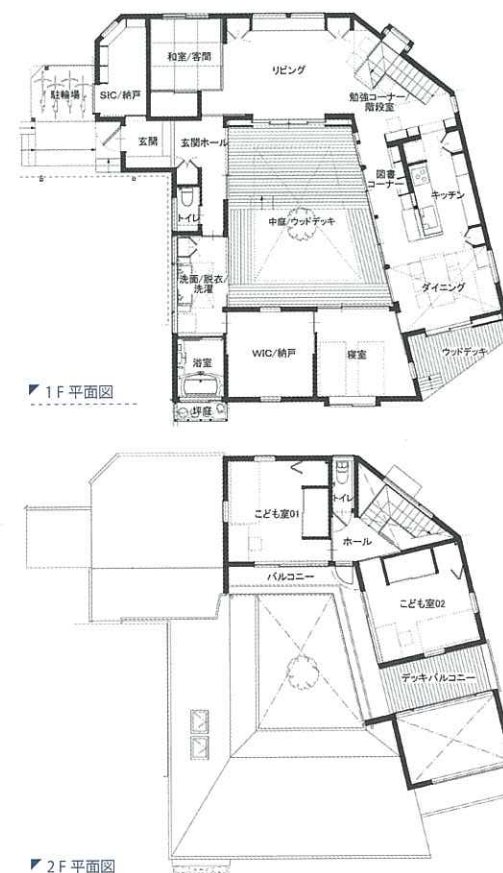


08.

Gunma Housing Award

Concept 設計趣旨

設計者 / 株式会社 下田設計
施工者 / 小島建設 株式会社



『敷地形状生かす～おらかな平面計画』

三方を道路に囲まれ、2箇所を隅切りされた変形敷地。この形状を平面計画にそのまま生かすことで、その敷地だからこそ成立する唯一無二の建築です。4台の駐車スペースを確保しつつ、施主の一番の要望であった「中庭」を造りだしていくように、敷地形状に外郭に沿わせながら諸室をぐるりと連ねました。このことにより室内動線は長くなりながらも、室どうしが密接しすぎない、おらかな平面計画が出来上がっています。隅切り部分の形状そのままに生まれた斜めの壁面は、今まで意識していなかった周囲との境界を新たに気付かせてくれます。そこに開口を設けることで、長年住んでいながらも今まで見えていなかった周りの景色が臨めるようになりました。北側隣家により隠れてしまい、見えないと思われていた赤城山の姿も臨めるようになりました。『家族の居場所と行為がふわりと連なる』

室内には造り付けテーブルやデスク、ベンチなどの居場所が設けられています。これらは回遊プラン内において見え隠れしながら緩やかに連なり、家族が各々の行為に没頭しながら、無意識下でお互いの存在を感じることができる距離感・関係性を生み出しています。また、室内にしながらも中庭を媒介にし、距離をおいて家族の姿を眺めることで、映画の1シーンのようにその場が印象的に記憶されます。

『ぐんまの気候にパッシブに対応』

南向きのダイニングは全開口サッシとし、周囲に開きながら、同時に風の通り道としています。植栽をし、庭を造ることで涼を生み、中庭のどこかの開口を開けておけば、さわやかな涼風が吹き抜けていくので、2011年の夏はクーラーを使用することなく過ごせました。また、コートハウスにしたことで、北風(からっ風)の影響を受けにくくなっています。